

市長記者会見記録

日時：2021年8月26日（木）14時00分～14時22分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：令和3年第3回川崎市議会定例会議案等について（総務企画局、財政局）
市政一般

<内容>

<令和3年第3回川崎市議会定例会議案等について>

【司会】 ただいまから、市長記者会見を始めます。本日の議題は、「令和3年第3回川崎市議会定例会議案等について」となっております。

それでは、福田市長から説明をいたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 令和3年第3回市議会定例会の準備が整いまして、9月2日木曜日招集ということで、本日告示をいたしました。今定例会に提出を予定しております議案は、条例8件、事件2件、補正予算9件、決算等19件、諮問2件、報告4件でございます。

今議会の主な議案といたしまして、まず、議案第126号から134号の補正予算でございます。このうち、一般会計の補正予算につきましては、新型コロナウイルス感染症対策を講じるものなどでございまして、補正額は総額で71億円余でございます。なお、感染症対策として実施する事業のうち、急ぎ対応すべき案件につきましては先行議決をお願いしております。

次に、議案第135号から議案第153号は、令和2年度川崎市全会計の決算についてでございます。一般会計におきましては、予算では、減債基金から125億円の新規借入れを予定しておりましたが、決算では、予算に対し市税が増収となったこと、そして小児医療費助成事業費や学校管理費の減など、新型コロナウイルス感染症の影響で歳出が減少したことなどによりまして、最終的には新規の借入れを行いませんでした。

重点的な取組といたしましては、待機児童対策の継続的な推進や学校施設の環境整備、川崎らしい地域包括ケアシステムの構築に向けた取組などの「安心のふるさとづくり」を着実に進めました。また、鉄道駅を中心とした広域拠点・地域生活拠点の整備や国際化に対応したイノベーションの推進、臨海部ビジョンに基づく戦略的なマネジメントなどの「力強い産業都市づくり」についても推進したところでございます。

なお、新型コロナウイルス感染症への対応につきましては、本市においても補正予算等を活用して、市民・事業者への支援、感染症の対策及び社会変容への着実な対応などに取り組みました。

公営企業会計の決算でございますが、病院事業、下水道事業、水道事業及び工業用水道事業につきましては、昨年度に引き続き黒字決算となったところでございます。

一方、自動車運送事業につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により乗車料収入が大幅な減となったことから、昨年度に続き赤字決算となったところでございます。

なお、諮問第1号及び第2号につきましては、地方自治法の規定によりまして、他の議案と分割し、先行議決をお願いするものでございます。

また、追加議案といたしまして、川崎市監査委員の選任、川崎市人事委員会委員の選任及び川崎市資産公開等審査会委員の選任の人事案件3件を提出する予定でございます。

いずれの議案につきましても、川崎市政にとって重要なものばかりであります。議会の皆様とは真摯に議論させていただき、両輪となって市政を運営してまいりたいと考えております。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明をいたしました議題についての質疑応答に入らせていただきます。なお、市政一般に関する質疑につきましては、本件の質疑が終了後、改めてお受けいたします。進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

【毎日（幹事社）】 幹事社の毎日新聞ですけれども、1件だけ。今説明の中には出てきませんでしたけれども、118号ですか、廃棄物の資源物のやつ、政令市とか他都市とかと比べると、他のほうが先行していたのかなという感じも。いろいろ川崎なりの事情があったと思うんですけど、その辺の事情と、この時期にこれをつくると、その辺の考え方を、市長、あったらお願いします。

【市長】 この話は随分古くから検討されていたものなんですけれども、様々な関係者への影響とかをしっかりと意見交換させていただくなりということもしっかり丁寧にやらせていただいた、その分、時間をかけてやってきたということもありますし、しっかりと福祉につなげていく、自立支援を行っていくことはすごく大事なことだと思いますので、その点もしっかり踏まえた上で、今回、条例をつくることにしているところでございます。

【毎日（幹事社）】 この受入れ、受入れというか、いわゆるホームレスの方の福祉、その辺を検討するのに時間がかかったというようなことですか。

【市長】 時間がかかったというか、丁寧にやってきたということだと思います。

【毎日（幹事社）】 今回、条例をつくる環境が整った、そういう……。

【市長】 と理解しています。

【毎日（幹事社）】 分かりました。

【日経（幹事社）】 幹事社、日経新聞ですけど、今のごみの条例に関してですけども、これ、ヒアリングだとか、ホームレスの方にいろいろしていて、多分、その中には、住民の方の理解を得ながらコミュニケーションを取りながらやっているというような意見もありまして、ホームレスの方というのは、自らがそういう生き方を選択している部分もありますけども、仮に市で進める福祉の施策について、そこに乗ってこないような方に対しても、やっぱり罰則というものは適用するという事なんでしょうか。

【市長】 例外というのはないと。

【日経（幹事社）】 ないということですか。

【市長】 はい。しっかり運用していきたいとは思いますが、ただ、私たちは自立支援というものにもものすごく力を入れてやってきて、それこそ国からもモデルとなるような、「川崎モデル」と言われるような、そういった自立支援に長年にわたって取り組んできた経緯もありますので、そういう意味ではすごく丁寧にやってきています。福祉的な要素というか、本当に自立支援をちゃんと、それぞれの個々の状況に応じた対応はこれまでもやってきていますし、これからもしっかりやっていきたいと思っています。

【日経（幹事社）】 基本的には悪質な業者を取り締まるのが主眼ということですね。

【市長】 そうです。

【日経（幹事社）】 分かりました。

【産経（幹事社）】 幹事社の産経新聞です。間もなく議会が始まりますけれども、今回の議会にかける意気込みといいますか、心意気の一つ。

【市長】 やはり市民の皆さん、コロナの今の状況に対して非常に高い関心を持たれておりますし、日々、こうやっっている取組を報道機関の皆様を通じて発表させていただいておりますけれども、そういった中での議会ですので、感染予防というか、対策に十二分に私たち職員も議員の皆さんも気をつけながら取り組まなくちゃいけないということもありますが、本当に緊張感を持ってやっていきたいと思っております。私、今任期でいうと最後の議会という形になりますので、しっかり緊張感を持ってや

っていきたいと思っています。

【産経（幹事社）】 ありがとうございます。

各社、どうぞ。

【朝日】 朝日新聞ですが、先ほどの廃棄物処理条例の話で、ホームレスの自立支援として、このタイミングで何か新たにこういうことも考えていくということはありませんか。

【市長】 特に新たにということではないと思いますが、何か補足するものはありますか。

【環境局】 環境局の収集計画課ですけれども、今回の条例の取りまとめをやっておりまして、基本的には健康福祉局からは、新たなメニューは想定しておりませんが、これまでの総合的なパッケージのメニューをしっかりとやっていくという考え方で調整をしているところでございます。

【朝日】 ありがとうございます。

【毎日（幹事社）】 議案のほうはいいですか。いいみたいです。

【司会】 それでは、本議題についての質疑はこれで終了いたします。関係職員はここで退席をさせていただきます。

《市政一般》

【司会】 続きまして、市政一般に関する質疑応答をお願いいたします。進行につきましては、改めまして幹事社様、お願いいたします。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【毎日（幹事社）】 引き続いてですけど、今日、モデルナ社のワクチンが異物混入ということで、川崎にも多少関わってきている。影響自体は今のところ、直接的なものはないようですけども、今後のスケジュールに何か影響しますでしょうか。

【市長】 いえ、スケジュール的には影響しません。既に入っているワクチンがありますので、対象となっているロットを外して、違うワクチンを充てるといった形にしたいと思います。

【毎日（幹事社）】 数が足りなくなるとかそういうことは……。

【市長】 特にございませぬ。

【毎日（幹事社）】 一応、今までのやつは、チェックした限りは異物はなくて、影響もないと。今後についても今のところはないと、そんな感じでしょうか。

【市長】 そうです。

【毎日（幹事社）】 毎回聞いていますけれども、感染、いろいろ動いて、読みにくいところもあると思いますけど、今の時点での感染の状況をどのように捉えているんでしょうか。

【市長】 感染状況は下げ止まっておりませんので、まだ実効再生産数も1を切っていない状況ですから、先週末までですと1.1ということですから、まだ感染は増えている状況にあります。そういった意味で、先々週より少し緩やかにはなっていますが、まだ広がっている状況で、病床もさらに後からついてくる話ですから、引き続き大変厳しい状況になっていると受け止めています。

《9月1日以降の市立学校の対応について》

【日経（幹事社）】 幹事社、日経新聞です。新学期が始まって、川崎も夏休み期間を、臨時休校期間を延長して、取りあえず短縮の授業で始められるということを決められましたけれども、デルタ株に関しての感染対策というものは、特に従前と同じような形であるだろうし、児童や保護者の間では非常に不安が高まっていると思うし、家庭内感染の可能性が広がってきていることですが、今後の市の予定としては、文科省が定めるガイドラインに沿って休校などの判断を進めていくという形でしょうか。

【市長】 そういうことになりますけれども、この期間中、今時点でも、いわゆるGIGA端末を使ってという準備をしていますが、1日からは、いわゆるハイブリッドで授業も流していくという形で、基本的には1日から10日は午前授業という形になっていますけれども、それについても非常に不安だと思っておられる方いらっしゃると思いますので、そういう児童・生徒のためということで、基本全ての授業を、できない体育とかというのはありますが、実技的なものは難しい部分がありますけれども、それ以外は基本ハイブリッドで、オンラインも併用してという形でやっていきます。オンラインで自宅で授業を受けたお子さんについては、欠席扱いにしない形にしておく予定であります。

それから、午前授業なんですけれども、給食は出すことにしていますが、給食についても不安を感じておられる方いらっしゃると思いますので、そういった意味では、それも選択できるように対応していきたいと思っています。そのことについても、各学校から今、意向というか、アンケートみたいなものを取らせていただくという形に準備を進めているところでございます。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【日経（幹事社）】 分かりました。あと、野戦病院というか、酸素ステーションとい

うのか、そのようなものを今設置する御予定はありますか。

【市長】 酸素ステーション単体という形では考えていません。というのは、この前も申しあげましたけれども、そこにも医療従事者が必要なわけで、とにかくまず病床に対する取組を、そこに対する手当てを最大限に集中させないといけないタイミングですので、まずそこを最優先にやらせていただきたいと思います。

【日経（幹事社）】 分かりました。

《コロナ禍での観光施策について》

【産経（幹事社）】 産経新聞です。先日、お隣の横浜市でカジノ反対の市長が誕生されることになりましたけれども、今後横浜市ではIR計画中止という流れになっていくかと思えますけど、ここに来て川崎市が手を挙げるというお考えはありますでしょうか。

【市長】 特に計画はありません。

【産経（幹事社）】 ひそかに期待されている市民もいらっしゃるかなとは思いますが、そういったところ、全くお考えはないですか。

【市長】 特に私たちで、そういった検討したということはありません。

【産経（幹事社）】 2年ほど前に、私、市長にお話を伺ったときに、まだそれはコロナの前だったんですけれども、観光に力を入れていきたいとおっしゃってしまして、それで、あのときは羽田からの外国人観光客を駅前に誘導したいというような流れで考えているということをおっしゃっていましたが、その後、コロナが始まって、観光というものに対する考え方も変化はあるかと思うんですけれども、その辺、どういふふうにお考えは……。

【市長】 ちょうどコロナが始まる直前に、特にナイトタイムエコノミーというのに少し力を入れようという形で予算立てもし、やってきました。コロナが明ければ、観光がまた復活してくるというのは思っています。なので、この間もできないものについては延期だとか中止にしましたけれども、それ自体の歩みというか、挑戦は決してやめたわけではありません。例年、予算もつけ、できるものについてはやってきて、仕込みをしているので、そういった意味で、コロナだから全てを諦めるということではなくて、コロナ明けに向けてできる準備はこれからもしていきたいと思っています。

【産経（幹事社）】 分かりました。ありがとうございます。

それじゃ、各社どうぞ。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【東京】 東京新聞です。医療逼迫がずっと言われてきていますけれども、特に通常

医療の中で救急搬送困難に陥った事案で、間に合わなくて命を落とされるとか重大事故につながるといったような事例がこれまで市内で確認されているかどうかという認識を伺いたいんですが。

【市長】 通常医療ということでしょうか。

【東京】 はい。コロナ以外の患者さんにもそういう形で影響している状況があるかという質問です。

【市長】 例えば通常医療で、コロナではない方で救急搬送が要請されて、病院で受け入れることができなくて適切な対応が取れなかったという案件でしょうか。

【東京】 はい。

【市長】 お願いします。

【健康福祉局】 健康福祉局の保健医療政策室です。よろしく申し上げます。救急搬送、確かに困難事例は増えております。その中で、処置が間に合わずということについては、現状、健康福祉局には入ってきてございません。

以上でございます。

【東京】 分かりました。そのほか、現状の医療の逼迫度合いというか、感染からはやや遅れて病床の埋まるスピードも追ってついてくるとい形になるかと思えますけど、現状、医療の状況はまだ余裕があるのか、それとももうぎりぎりという状況が続いているのか、どう見ていらっしゃるか伺えますか。

【市長】 現状、310ぐらいですかね。310床ぐらいが実働として病床は動いておりますけれども、今日現時点で何名になっているか、290ぐらいになりますか。

【健康福祉局】 294です。

【市長】 294ということですので、もうほぼフルに稼働している状況で、先日来申し上げているとおり、今310ぐらいとかという、これが350ぐらいまでは確保のめどが立っている状況ですけれども、日々こうやって少しずつ増えていっている状況なんですけど、それに新規の入院の方が追いついて追い越していくという形を常にやっている状況が現時点でも続いている状況です。

【東京】 分かりました。ありがとうございます。

《政務活動費に関する住民監査請求の結果について》

【朝日】 朝日新聞です。先日、監査委員から、秋田恵市議会議員の令和元年度の政務活動費について一部不適切なものがあったということで、返還を請求することを検討すべきというようなことが出されたと思うんですが、市長としてこの問題についてはどのように対応されるおつもりでしょうか。

